



健口は生きる力の源

日時：令和5年12月4日（月）
14:50~16:00

会場：TKP エルガーラホール 8階
大ホール（福岡市中央区天神 1-4-2）

入場無料・事前申込不要

九州歯科大学客員教授（九州大学名誉教授）

山下 喜久 氏

【講師略歴】

1986年 3月 九州歯科大学大学院 修了
2000年 10月 日本大学歯学部衛生学講座 教授
2003年 7月 九州大学大学院歯学研究院口腔保健推進学講座 教授
2023年 3月 九州歯科大学客員教授・九州大学名誉教授

【主な専門分野】

口腔衛生学、口腔予防医学、口腔微生物学

【主な学会・社会活動】

日本口腔衛生学会（指導医、認定医）、九州口腔衛生学会、日本歯科基礎医学会、日本細菌学会、日本ヘルスケア歯科学会、国際歯科研究学会、米国微生物学会

<講師コメント>

我々は普段何気なく食事をしていますが、歯や歯茎に異常があると食事を採ることが思った以上に苦痛になります。大脳皮質の各領域とそれが支配する身体の表面積の対応関係を調べるとその割合は必ずしも均等ではなく、細かな作業をする手指やお口の中に対する領域が極端に大きくなっています。そのため、お口の中はミクロン単位の僅かな変化でも敏感に感じ取りますが、そこに発生する異常は他の部位とは比較にならないほど大脳に影響を及ぼし、食事はもとよりその他の生活の質（QOL）全般の低下にも繋がります。

これほど敏感なお口の治療はたとえ名歯科医であっても如何に難しいかがお分かりいただけると思います。虫歯になれば削って詰める、歯が抜ければ入歯を入れると安易に考えがちですが、繊細な口腔の機能を完全に元に戻すことはとても難しいのです。中国の古書に「小医は病を医す、中医は人を医す、大医は国を医す」とあるように、生じた病に対処するのではなく、その根本原因に向けた対処こそ医療の理想です。

近年、我が国における若年者の虫歯は激減しており、中学生の7割、高校生の6割には1本も虫歯がないという統計調査結果が報告されています。高齢者では過去の虫歯洪水時代が影響して、虫歯が目に見えて減少していませんが、高齢者に残る歯は年々増加しています。実際、80歳で20歯以上の歯を残す「8020」の目標を達成している者が50%を超えたとのこと。

今や歯や歯茎の治療のため歯科医院に通う時代は過去のものとなり、お口の健康を保つために歯科医院を利用する時代が到来しています。皆さんはそんな時代に追いついていますか？歯科医院を上手に利用することで健口を保ち、生きていることが楽しい時を少しでも長く過ごすためのコツをお話できればと思います。

★特別講演の冒頭で、福祉局福岡100推進課より、
福岡100の取り組み紹介を行います。

人生100年時代を豊かに暮らすための健康・暮らし情報や
イベントのお知らせをLINEで配信中！

福岡市LINE公式アカウント「受信情報」から「健康・暮らし等」を選択
「友だち追加」はこちら▶



【問い合わせ先】

福岡市役所 保健医療局 地域医療課
TEL：092-711-4892